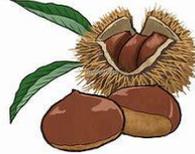


農作物の高温・干ばつ対策について(果樹・花き)

気象庁の1か月予報(7月25日発表)によると**期間の前半は気温がかなり高くなる**と予想されています。また、茨城県農業総合センターから高温に対する技術対策等について(梅雨明け後の高温と干ばつに対する技術対策等について (pref.ibaraki.jp))情報提供がされました。高温が続くことで、農作物の生育が早まることが予想されますので、作業計画の見直しを検討するとともに、下記を参考に農作物の管理作業を行ってください。

果 樹



【干ばつ・高温対策】

- 1) 高温で土壌が乾燥した場合には、葉からの蒸散が抑えられ果実の高温障害発生が助長されるため、**早めのかん水**を励行する。
- 2) 棚面吊り下げ式スプリンクラーや灌水チューブ設置による灌水が効率的である。かん水設備は漏水、目詰まり等がないよう事前に点検を行っておく。
- 3) 特に**ブドウは根が浅いので、株元の根域への少量・多回数のかん水が有効**で、晴れた日は、午前中にかん水する。また、ほ場の夜温を下げるためには、夕方の散水も有効だが病害発生を助長するので注意する。
- 4) 干ばつ時には**ハダニ類が急激に発生しやすい**ため、発生動向に十分注意し、発生初期からの薬剤防除を実施する。
- 5) 草生栽培では、急劇な草刈りは葉焼けを助長するため、**こまめな草刈り**を実施する。
- 6) **適切な整枝剪定や新梢管理**により棚面の適度な葉数を確保し、果実の障害や日焼け等の低減につなげる
- 7) 土づくりや適正な肥培管理により高温による影響を受けにくい樹体づくりを心掛ける。
- 8) 樹幹株元へのワラ被覆などにより樹体の保護と、土壌表面からの水分損失を抑える。
- 9) 特に高温や直射日光による影響を受けやすい品種等では、遮光資材設置などによる被害回避を検討する。

かん水の
実施については、
地域の水事情にも
十分配慮して
行いましょう

【高温時の収穫出荷対策】

収穫は果実温度が高まる前の午前中に行い、高温時の収穫は避ける。また、収穫後は涼しい風通しのよい場所での保管、選別に努める。



花 き

【干ばつ対策】

- 1) 干ばつ傾向にある地域の露地栽培の花きについては、土壌の保水力を高め、また、根を深く張らせるために、**定植前には深耕、有機物の投入等に努める**。さらに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努める。(有機物投入の際は定植までに十分期間がとれるように注意)
- 2) ハダニ類、アブラムシ類等高温乾燥時に発生が多くなる病害虫については、適期防除に努める。

【高温対策】

- 1) 切り花については、朝・夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。
- 2) エチレンによる劣化を防ぐため前処理剤を使用し、品質の維持に努める。
- 3) ハウス栽培の花きについては、ハウス内の温度上昇を抑制するため、妻面・側面を開放するとともに、遮光資材等を使用する。細霧冷房装置や換気装置の使用により適切な温度及び湿度の管理に努める。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。